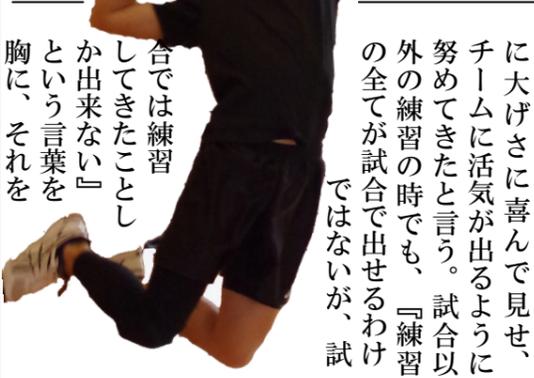


# 高総体に向けて

立て、日々の練習に励んできたことだろう。また、数々の試練を乗り越えてきた三年生にとってはこの高総体が最後の大会となり、高校生活での部活動に終止符を打つ瞬間である。そこで私たちは、彼らのこの大会に向けての志や今まで抱えてきた思いを探るべく、女子ソフトテニス部、男子バレーボール部の二つの部活動のキャプテン取材を行った。

## 男子バレーボール部

男子バレーボール部は長崎県でベスト8に入ることを目標としている。練習風景を、ボールを追う視線は真剣そのもので、部員全員が声を上げてプレーしている。互いに支え合っているように見えた。しかしその裏では、やはりキャプテンの支えが大きいのではないだろうか。どんな時でも諦めず、皆を引っ張ることを自身の目標としてきたキャプテン



合では練習してきたことしか出来ない』という言葉を胸に、それを

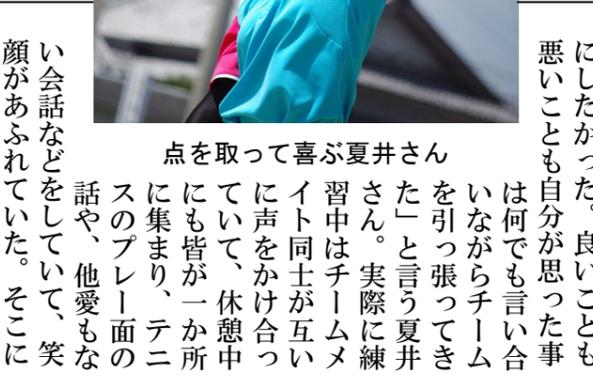


笑顔で手を重ねる。太田くんは最後の大会となるこの高総体が、最高の試合となり、今まで共に過ごしてきた仲間との最高の思い出となるよう、心を一つに選手全員が胸を張って全力でプレーできている。(唯)

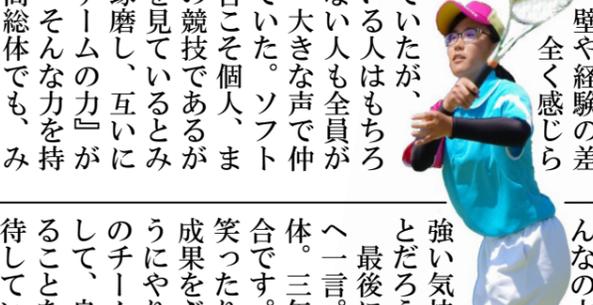
# 高総体まであと10日!!

## 女子ソフトテニス部

女子ソフトテニス部は高総体での目標を『県団体ベスト4』と掲げ、一生懸命練習に励んでいる。キャプテンを務めるのは夏井遥香さん。明るく笑顔で皆に指示を出しているのが印象的なキャプテンだ。「学年関係なく部員全員が何でも言い合えるよう



悪いくとも自分が思った事は何でも言い合いながらチームを引っ張ってきた」と言う夏井さん。実際に練習中はチームメイト同士が互いに声をかけ合っている。休憩中にも皆が何か所に集まり、テニスのプレー面の話や、他愛もない会話などをしていて、笑顔があふれていた。そこに



学年の壁や経験の差などはない。また別の日は練習試合をしていたが、試合をしていない人も全員が一列に並び、大きな声で仲間を応援していた。ソフトテニス試合こそ個人、またはペアでの競技であるがこのチームを見ていると、みんな切磋琢磨し、互いに高めあっている。そんな力を感じられた。そんな力を持つ彼女らは高総体でも、みんなの力を合わせて

# 五高新聞

第149号  
発行：五島高校新聞部

## ふるさと散策 堂崎への道



緑豊かな堂崎コースを歩く

一年生が入学してからおよそ二週間が経った四月四日、毎年恒例の行事である、ふるさと散策が行われた。今年のコースは堂崎コース。海のそばまで山が迫る美しい入り江を歩くコースである。天気にも恵まれ、青空のもと、およそ二十キロのコースを全校生徒で歩いた。



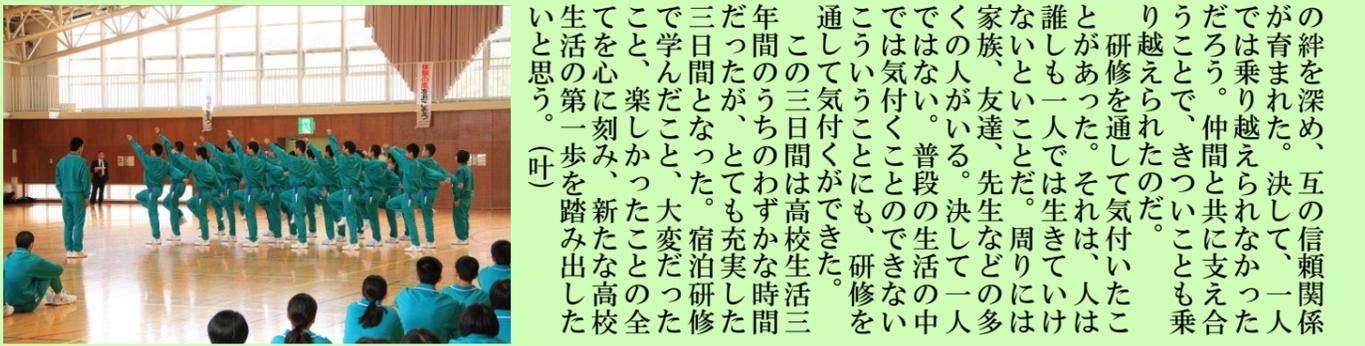
昼食休憩のひととき

四月のこの時期に行われるふるさと散策は、新しく編成されたばかりのクラスでの親睦を深めるための行事でもある。各チェックポイントでは、生徒会が用意したクイズが出題された。全問正解した班には班員全員に景品が用意された。班で話し合い、難しいクイズに挑戦した。

昼食が終わると昼食を食べた広場を全校生徒で清掃した。分別にも気を使っ、ごみを回収していく。使った場所は来たときよりも美しくするという良い伝統である。教会を出発して、帰路ではさすがに疲れも見え始めた。チェックポイントでは持参していた飲み物が足りなくなり、給水に列を作ったり、その場に腰を下ろして休んだりする生徒もいた。学校には最後のチェックポイントが設置され、クイズの結果発表や景品の受け渡しが行われた。

## 宿泊研修を終えて

入学式から五日後、新入生の三日間にわたる宿泊研修が諫早青少年自然の家で行われた。一年生は緊張した面持ちで研修のスタートを切った。入所式にて、教頭先生の言葉が気持ちをより一層引き締めた。「この三年間を一六四名で過ごしていくという覚悟を決めなさい」という覚悟を決めるべく、一年生全員は一致団結して様々なことに挑戦した。



この三日間は高校生活三年間のうちのわずかな時間だったが、とても充実した三日間となった。宿泊研修で学んだこと、大変だったことを、楽しかったことの全てを心に刻み、新たな高校生活の第一歩を踏み出したと思う。(叶)